

アクティブ・ラーニング ノ ススメ in かがわ

# アクティブ・ラーニングで 全員参加の学校づくり！

- 1 私もできる！ カリキュラム・マネジメント
- 2 授業改善からのカリキュラム・マネジメント
- 3 児童生徒が関わるカリキュラム・マネジメント



# 1 私もできる！カリキュラム・マネジメント

資質・能力を育むには、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善とともに、**教育課程の在り方を改善し続ける**ことが必要です。

そのためには、**役割や経験年数が違う全教職員の視点や、児童生徒や保護者、地域の方々などそれぞれの立場からの視点を活用**することが求められます。

## カリキュラム・マネジメントって何？

カリキュラム・マネジメントは、各学校の教育目標の実現のため、児童生徒の姿や地域の実状等を踏まえ、学習指導要領等に基づき、**教育課程を編成・実施・評価・改善**することです。

カリキュラム・マネジメントの充実は、全教職員が教育課程全体から日々の授業について見直し、改善に取り組む意識を高めます。そして、学校に関わる全ての人が連携・協働することにより、「**社会に開かれた教育課程**」の実現につながります。

## どのようにカリキュラム・マネジメントをするの？

カリキュラム・マネジメントは、3つの側面から取り組むことが効果的です。

### 教科等横断的視点

各教科等の教育内容を相互の関係から捉え直し、より良い編成を行います。

- ・国語科で学んだ新聞づくりを社会科のスーパーマーケット見学のまとめに生かそう！
- ・理科で環境問題に関わる教材がある。校内の先生方に、関連教材などを聞いて、学習時期を考えよう。

### PDCAサイクルの確立

児童生徒や地域の現状等に関する調査やデータに基づき、教育課程の改善を常に繰り返します。

- ・目指す児童生徒像を実現するための学校課題は何だろう？
- ・全教職員で、主体的・対話的に学ぶ授業づくりに取り組んだ成果と課題を共有しよう。
- ・児童生徒や保護者のアンケートから今までの取組を見直そう。

### 教育資源の活用

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源の活用を効果的に組み合わせます。

- ・〇〇を専門にしている地域の方と一緒に活動したい。
- ・地域のあいさつ運動に参加しよう。
- ・児童生徒が自己評価できるように、ICTを効果的に活用できないかな？
- ・体験的な活動で学びが深まるように、地域の施設を活用しよう。



## 2 授業改善からのカリキュラム・マネジメント

アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントは、**教育課程を軸にしながら、授業、学校の組織や経営の改善などを行う**ためのものであり、両者は一体として捉えてこそ学校全体の機能を強化することができます。

### アクティブ・ラーニングと連動させた学校づくり

各学校においては、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた指導方法の不断の見直し等による授業改善を進めていくことが求められています。

授業改善は、一単位時間だけでなく、単元や題材のまとめ、年間の指導計画から考える必要があります。さらに、教科等横断的な視点から行っていくことで、授業改善の取組は、カリキュラム・マネジメントを通じた組織運営の改善にもつながっていきます。



### アクティブ・ラーニングの充実に向けた学校文化の醸成！

学校が育成を目指す資質・能力を明確にした教育課程は、アクティブ・ラーニングによる授業の実施状況や教科等間の**連携の在り方を可視化し、全教職員で共有**することが大切です。

こうした組織体制により、全教職員が教科等を越えて、アクティブ・ラーニングによる**授業の在り方を自由に議論する文化**が生まれます。

この学校文化は、教科間、各教科と特別活動や総合的な学習の時間との関連性を一層深め、**教科単独では生みだし得ない教育効果**をもたらします。

#### ■カリキュラム・マネジメントとの連動で進む教職員の連携

- ・参観した授業で、生徒は深く考えていたけれど、教師のどんな手立てがあったのかな。授業者に聞いてみよう。
- ・技術・家庭科で扱った消費生活と社会科で扱う消費者行政の学習を効果的に関連付けられそうだ。



アクティブ・ラーニングによる授業を校内外に公開し、大学教員の指導・助言をもとに、教職員の授業デザイン力の向上を図った。

【香川県立丸亀高等学校】



大学教員の講演の後、授業実践について報告。他校の教員も交えて、深い学びにつながる授業についてグループ協議を行った。

【香川県立高松北高等学校】

このような、各教職員の不断の授業改善と、学校全体がチームで取り組む校内研修等を通じた研究を重ねていくことで、**自校のカリキュラムを自らマネジメント**する意識の形成につながります。

### 3 児童生徒が関わるカリキュラム・マネジメント

学習の主体は児童生徒です。**児童生徒が自らの学びをより良いものにしようと目標をもち、学習環境等を改善しようと取り組むことが、各学校の教育目標の実現につながります。**



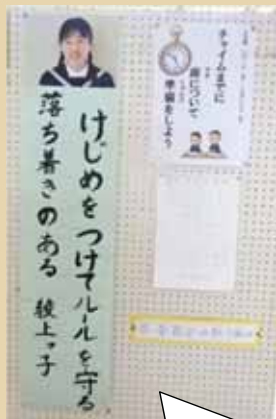
#### 学習者主体の授業は、参画意識へつながる！

アクティブ・ラーニングによる授業では、児童生徒が自らの願いをもち、ゴール像を描きながら、それを実現しようと能動的に取り組む姿が期待できます。このような学びの経験は、自分を取り巻く実社会や実生活での問題に気づき、解決しようとする意識をもたせるだけでなく、**自分たちの力で解決できるという自信と自覚、学校や社会に参画する意識**につながります。

#### 教師と児童生徒が共に学校をつくる！

多くの学校では、授業評価やアンケート調査を実施し、児童生徒の意見を生かした取組が行われています。また、児童生徒自身が「学びのルール」をつくったり、「自分たちが目指す児童生徒像」を学校全体に提案したりするなど、学級・学校文化を創造することもあるのではないのでしょうか。

このように、**児童生徒が学級や学校づくりに対して積極的に関与する場を設定することは、カリキュラム・マネジメントといえるでしょう。**教師は、共に学びをつくる存在として児童生徒の力を信じ、一人ひとりの言葉を受け止め、児童生徒の願いや考えが発揮できる学級や学校をつくっていきましょう。



児童会を通して、「目指す児童像」が提案され、学びに向かうより良い姿が共有化される

【綾川町立綾上小学校】

学び合う関係性を高めるために、「学び合い五つのルール」を生徒と教師が共につくる

【高松市立協和中学校】



授業で育まれた主体的な態度が日常生活にも広がり、生徒自ら荷物の整理整頓を行う

【観音寺市立観音寺中学校】



このアンケートは、教員と生徒が協力して「授業」をより良いものにしていくために実施するものです。次の評価内容それぞれについて、A～Dの該当する欄に○印をつけてください。なお、授業評価でB・Cの評価を記入した場合は、具体的な改善事項を下の欄に書いてください。

【A：そう思う B：少し思う C：あまり思わない D：全く思わない】

|      | 評価内容                                           | 7月 |   |   |   | 12月 |   |   |   |
|------|------------------------------------------------|----|---|---|---|-----|---|---|---|
|      |                                                | A  | B | C | D | A   | B | C | D |
| 自己評価 | 1 授業の予習・復習をしている。                               |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 2 授業には真摯に取り組んでいる。                              |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 3 授業内容を理解できている。                                |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 4 問いなどに対して積極的に自分の考えを述べたり、他の意見や考え方を取り入れようとしている。 |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 5 分からないところは質問に行くようにしている。                       |    |   |   |   |     |   |   |   |
| 授業評価 | 6 前期や後期を振り返る機会に活用している。                         |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 7 難しい問題にも自主的にチャレンジしている。                        |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 8 授業のスピード（進度）は適切である。                           |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 9 考え方や表現が適当である。                                |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 10 授業内容の難易度が適切である。                             |    |   |   |   |     |   |   |   |
| 改善事項 | 11 前期や後期の振り返り内容が適切である。                         |    |   |   |   |     |   |   |   |
|      | 12 教師の説明や他の生徒の考え方を積極的に活用できている。                 |    |   |   |   |     |   |   |   |

生徒と教師が協力して「授業」をより良くするために、生徒による授業評価を行う

【香川県立高松北高等学校】

アクティブ・ラーニングの参考資料を香川県教育センターWebサイトに掲載していますのでご参照ください。また、研究についてのご相談等がありましたら、香川県教育センター教育研究課までご連絡ください。



〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1  
TEL 087-813-0931 (教育研究課 直通)  
FAX 087-881-3270  
http://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/

〔平成28年度香川県教育センター協力学校〕  
香川県立高松北高等学校 香川県立丸亀高等学校  
高松市立協和中学校 観音寺市立観音寺中学校  
高松市立十河小学校 高松市立牟礼小学校  
綾川町立綾上小学校

平成28年10月